

ふじネットワーク



△住環境のよさは富士市一の富士見台



自然環境に恵まれた ふれあいのあるまち 富士見台

このコーナーでは、公民館単位に各地区の話題や人物を紹介します。あなたの地区でのちょっとしたこぼれ話、出来事、ご意見などありましたらご連絡ください。9月は吉永、10月は須津地区です。連絡先…市内永田町1-100 市広報広聴課 ☎51-0123 内線2822、締め切りは毎月15日です。

富士見台地区は、茶畑と雑木林を切り開いた富士見台団地と旧原田地区の三ッ沢北端の住宅地から形成されています。

富士見台団地は、昭和四十五年から五十一年にかけて県が開発造成したもので、約二十一万坪の広さをもっています。現在は二千戸余りの新しい住宅が建ち並び、いまでも宅地造成が進んでいます。

住民の年齢層は比較的若く、住民の大半は全国各地からきた県外出身者であるのが特徴の一つです。このため、物の見方、考え方も多様化していますが、家を建てた人たちは、ここを永住の地と定め新しいまちづくりに意欲的です。

三ッ沢地区については、生活環境整備に遅れはあるものの、一人ひとりの意識は富士見台団地と総じて変わりありません。

今後は三ッ沢地区の生活環境整備を図り、富士見台の恵まれた環境の継承や、市街地への交通体系の整備などが課題です。また、次代への伝統文化をつくりあげていく必要のある地区でもあります。



日中友好一家

富士見台二 内藤さん一家

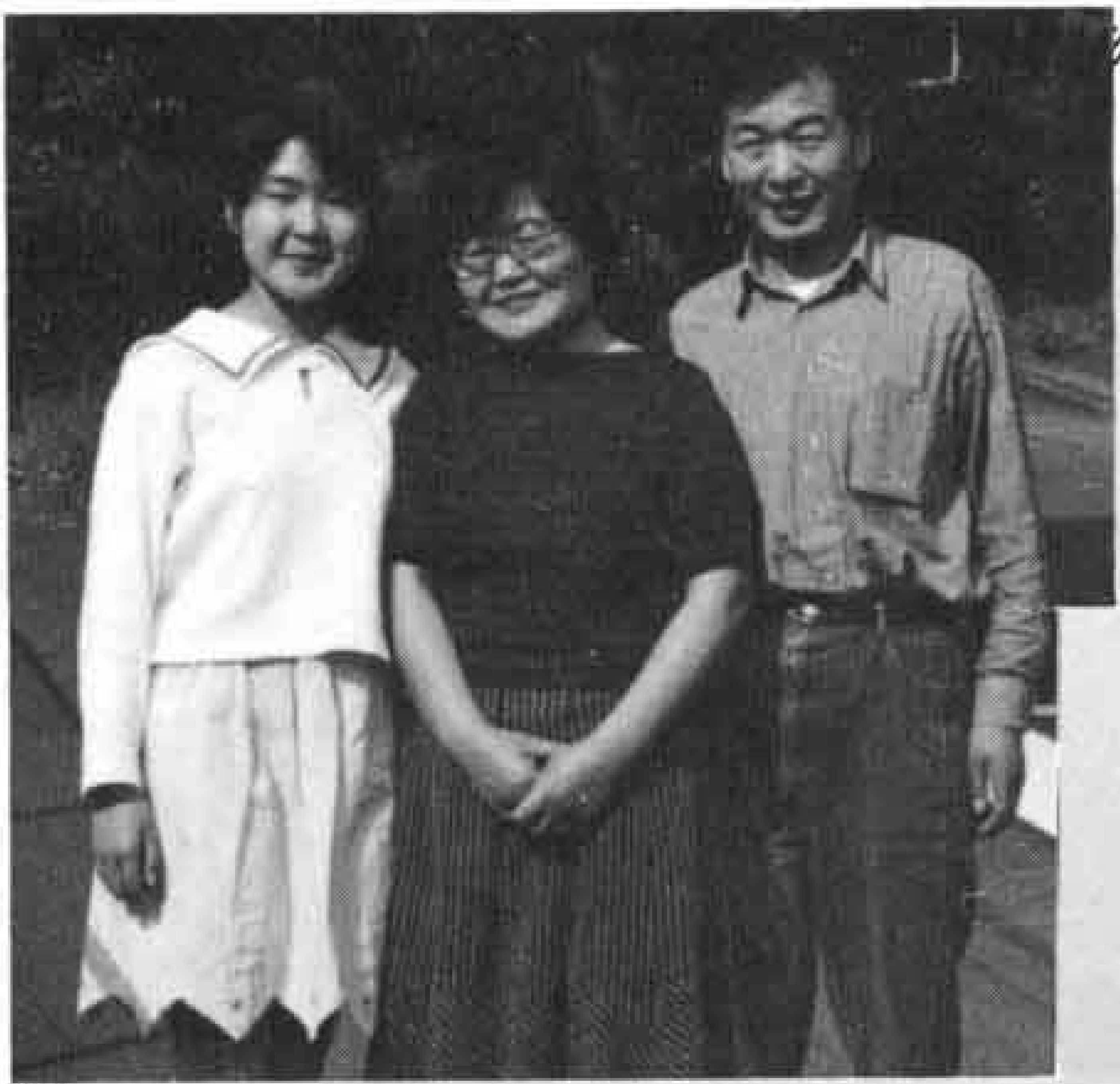
内藤さん一家は中国残留孤児一家として日本へ来て四年目。言葉・生活習慣など全く違う環境の中で、意欲的に努力し、日本社会にうまく溶け込んでいます。今回は、内藤さん一家におじやました。

内藤さん一家の一番の障害は、苦勞しています。それでも日常生活に支障がない程度の日本語を話せるようになりました。

現在、申さんは中国語を生かした会社で研修中。南さんは福祉センター広見荘の臨時職員として働いています。秀子さんはコンピューター会社のキーパンチャーとして勤めるかたわら、青年講座の中国語の講師もしています。「運転免許を取りたい」というのが今の希望です。「明石家さんまのファン」と言う玲子さんは、吉原商業高校二年生。ちゃめっ気たっぷり、だれがみても日本人。



△長女の秀子さん



▷右から申さん、南さん、玲子さん

一家の夢は、一人前になった保夫さんを中心にした中華料理店を開くこと。ガンバレ内藤さん一家。

